

## バグダッド 日誌 (2月4日)

### ○ライフラインのありがたさ

バグダッドは昨日から雨風が激しく、この影響で停電が続いている。昨日は朝6時から午後2時まで、夜は8時頃から停電し、未だ復旧していない。日本コンテナのとなりにある米軍のプレハブは、屋根が吹き飛び、机・椅子・本棚等を暴風雨の中運びだしていた。

日本コンテナはオーストラリア連絡幹部をして「ハイク・アーマー・ボックス」と言わしめるほど充実しており、屋根が飛ぶ等の心配は全くない。停電中も日本コンテナ専用の発電機を利用して通信を確保できる状態になっている。他国の連絡幹部が「お手上げ！」状態のなかでも最低限の業務ができる環境は、本当に有り難い。

しかしハイク・ボックスにも弱点はある。日本コンテナはその機密性の良さから、常に換気扇をまわす必要があり、室内の二酸化炭素が多くなるとセンサーが反応し、警告音を鳴らす仕組みになっている。しかし、停電となると通信機器の電力確保が精一杯で、エアコン・換気扇はもちろん二酸化炭素警告センサーさえも使用できない。ドアを少し開け、部屋を換気する必要がある。バグダッドとはいえ、この時期は夜になると冷え込み2〜3℃くらいまでさがり、

運の悪いことに夕食後コンテナに戻る途中に大雨となり、濡れ風となってしまった。部屋に戻った時は既に停電し、震える夜を過ごすこととなった。

ナイトシフトの[ ]は、勤務前にシャワーを浴びるため田んぼのようになった道を暴風雨の中歩いていった。しかし断水のためシャワーは使えず、結局泥だらけになって帰ってくるしかなかった。

バグダッド市内は通電時間が平常でも4時間〜6時間しかなく、水不足は常態だ。キャンプ・ビクトリーでは、停電しても司令部・食堂の電力は常に確保しているため、業務に支障はなく、暖かい食事がとれ、飲み水は十分に確保してある。それでも停電・断水の間は、大変な不便を感じる。バグダッド市民が停電・水不足に耐え復興を待ち望んでいる気持ちを実感できた。また、この停電が真夏に発生したらと思うと、イラク国民のフラストレーションが特に夏に高まるのも分かる気がする。



## バスラLO日々業務報告(2月4日1900)

区 分	内 容
1 警戒態勢	バスラ空港 [ ] (警戒態勢) : [ ]
2 特記事項	(1) [ ] (2) [ ] [ ]
3 本日の業務	(1) 情報要求対応 SSR (ISFの戦力化の状況)、MND(SE)の将来計画、IED及びIDF関連情報、デモ関連情報等 (2) 定例情報収集 : [ ] (3) 定例会議への出席 : 司令部朝会議・夕会議、J2・J3・J9調整統一会議 (4) 空陸輸送等調整 (5) CME会議調整、J4会議調整
4 明日の予定	(1) 情報要求対応、定例情報収集 (2) 定例会議への出席 (3) CME会議調整、J4会議調整
5 その他(備考)	